

「1936 年国賓訪日ブラジル経済使節団員の日本印象記」を読む
移民送出だけでなく、和魂洋才の近代日本の印象を全ブラジルに伝える

栗田 政彦

1. ブラジル訪日経済使節団のそもそも

- 1) 移民制限法と平生鈆三郎訪伯経済使節団（移民ブラジル事情の移民小史と日本観への変化兆し）
- 2) 初めての日伯経済会議と共同宣言書（宣言書の昭和天皇へのご進講と平生鈆三郎の要望書）
- 3) 国賓としての訪日招聘（2・26 事件、満州中国問題下での時世）とブラジル代表団員選出

2. ガリヴァルヂ ダンテス氏の日本印象記

1) 原本：1936 年 11 月 10 日から伯国新聞[O Estado de Sao Paulo] に 2 2 回に亘り連載。

（著者：経済使節団員、Garivaldi Dantes SP 取引所綿花部長、O Estado de São Paulo 記者）

「Impressões do Japão」 Ultimos dias de Japão Imigração japonesa para o Brasil Uma escola de
immigrantes A função economia e social emmigração – O café nos templos Japonezes.」

2) 日本語訳：国際パンフレット通信（株式会社タイムス出版社、ジャパンタイムス社出版部）第 1013 号、1014 号
1937 年 5 月 16 日発行

「ブラジル経済使節の日本訪問印象記 ガリヴァルヂ・ダンテス手記」

訳者：妹尾正男氏（明治 45 年東京外語出身、在伯 20 年、1935 年帰国。1953 年独習ブラジル語著者）

< 外交史料館、複写資料ほかより >

3. 近代国家日本認識向上の観点からの要点抜粋

- 1) 日本人の歓迎ぶりに関する記述から、「日本・日本人とは」の印象を読む
- 2) 旅行記の中に「バランスの国」日本の紹介を読む
- 3) 日本人と日本の国力についての紹介を読む
- 4) 日伯通商協議会と日伯経済懇談会等を通じての両国の重要関係を読む

4. 訪日ブラジル使節団の成果と日伯交流への意義

- 1) 成果：相互認識の大飛躍（ブラジル人の日本の実力認識と日本人の西洋人国家ブラジル認識）による経済文化交流の急展開
- 2) 意義：蜜月の日伯交流構築と戦後早期移民再開等の交流再開への道筋

5. 参考： 使節団旅程（印象記に記述の筆者自身の旅程）

1936 年 9 月 20 日 横浜港到着、東京（日伯通商協議会開催）ならびに近郊（横須賀軍港）

30 日 東京発 川崎・横浜（日本鋼管）、鎌倉、箱根

10 月 1 日 箱根 沼津（特急 燕）名古屋（豊田織機）

2 日 名古屋（特急燕）大阪、綿花問題協議、日伯経済懇談会、鐘紡、大日本紡績、近郊（鳥羽他）

7 日 大阪（瀬戸内海経由）別府

8 日（一部宮島へ）八幡（戸畑漁業、日本製鉄所）下関 宮島

10 日 大阪、京都

12 日 京都（自動車）神戸（川崎造船所、巡洋艦「熊野」進水式、綿花輸入倉庫、移民収容所）

16 日 離日神戸港

1936 年 11 月 28 日 サントス港帰国（アルゼンチン丸）